栃幼時報

題字／栃木県知事　福田富一 氏

第138号

令和元年9月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会
〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁舎西別館
☎028(622)2821 FAX 028(622)2816
●編集人／伊沢　信恭　●発行人／石嶋　勇
■栃幼連ホームページ　http://www.youchien.or.jp

第66回 栃木県幼稚園教育研究大会

期日　令和元年七月三十日（火）～八月一日（木）

会場　宇都宮市文化会館

大会テーマ　「子どもたちの今と未来をねがって」

参加者数　来賓の皆さまと、県内の教職員約千五百五十名

主催者挨拶

栃幼連理事長　**石嶋　勇**

子ども子育て支援制度も五年目となり、今年度は新制度に移行した園も半数を超えたが、私学助成を受ける園とともに、より一層の幼児保育・保育にと力を注いでいただいているものと思っている。秋には幼児教育保育の無償化も迫っているため、これからも、皆様のご支援ご協力をお願いしたい。

各種の新たな課題に対しても皆様のご支援ご協力をお願いしたい。

来賓祝辞

ご来賓の栃木県知事福田富一様ご本人の幼児教育への熱い声援をいただいた後、栃木県議会副議長金子裕様、宇都宮市長佐藤栄一様からもご祝辞をいただいた。

表彰

「幼稚園教育振興功労者」（敬称略）

大久保　信男（認定こども園やすづか幼稚園）

「幼稚園教育研究功労者」

齋藤　佳子（認定こども園しずわづら幼稚園）

「栃幼連　永年勤続表彰」

五十年表彰　一名
四十年表彰　七名
三十年表彰　六名
二十年表彰　三十二名
十年表彰　五十九名

講演会

『学びに向かう姿勢』を支える家庭教育支援

講師　国立青少年教育振興機構　理事長　**鈴木　みゆき** 先生

最初に「国立青少年教育振興機構」とはどういうところかを説明いただいたため、鈴木先生の立ち位置がわかった上での研修となり、会場全体が一気に本題に入り込むことができた。

講演自体もわかりやすい事例をふんだんに使って進められ、とても楽しいものとなった。

我々保育者がどのようにしたら子どもたちの「学びに向かう姿勢」を大切にし、その姿勢を育て支える家庭のあり方を共に支えていけるのか、大きな課題も突きつけられ、保育者としての責任をも感じる有意義な時間となった。

●一番に伝えるべきは、今まさに変わろうとする学習指導要領について

・今の子どもたちは、厳しい教育環境

・小学校との接続は画期的

幼児教育を踏まえた指導をぜひ！

・十の姿になっていくためには？

・今の子どもたちの生活は？

・睡眠に注目

・懸念される影響多種

●ではどうすればいいのか、しっかり確かめていこう

・日常生活の中から始める

・理想と現実を比べてみよう

・子どもとともに、できることから始めよう

●生活改善のために

・夜編、朝昼編＝それぞれ十ヶ条

少しでも改善できるよう、保護者も保育者もしっかり気づき、取り組んでいきたいものである。

公演会

『保育を楽しむパネルシアター』

阿部　恵先生代理　**月下　和恵** 先生

まずはびっくり！二日前にピンチヒッターを依頼されたという月下先生はどんな先生？「阿部先生は知っているけれど、月下先生は？」と思った参加者も多かったのではないだろうか。

ところが、「この歌知ってる、聞いたことある。なんとこの歌の作者だったのか…」と頷きの繰り返し。

知っている曲は出るし、見慣れた映像も出るはで、とても失礼していたとも気づかされた研修となった。

そして改めて、「パネルシアター」の楽しさはもちろん、奥ゆかしさの一方で、緻密さが隠されているなどにも気づかされ、驚きの連続となったのだ。

「子どもたちには是非見せてあげたい、経験させたい」と思いつつも、「準備が大変！」とか「労力がかかり過ぎる！」などといっては少々逃げてしまいがちで、パネルシアターは鬼門の保育技術だと思っている保育者もいるように思うが、今回の公演会は、その気持ちを一掃させる内容で、すがすがしいとも言える楽しいものだった。

今後、各園でそれぞれの職員が協力して準備を成し遂げ、子どもたちの前で、パネルシアターの素敵な世界を繰り広げられるよう、努力したいところである。

御礼

県大会当日、皆様より募りました「平成23年東日本大震災」の義援金にご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

総額 100,526円

第66回 栃木県幼稚園教育研究大会 分科会

今年度の分科会は2日間に分けて行いましたが、いかがでしたでしょうか？どの分科会も話題提起の先生方がよく事例研究をされ、分科会の趣旨を理解して発表して頂いたことで活発に意見が交わされていました。また、錚々たる講師の先生方には、的を得るご助言をいただけたことと推察いたします。今大会も皆様にご協力いただき、盛会に終了することができました。ありがとうございました。

教育研究委員長　小倉庸寛

分科会	話題提起者	会　場
1		とちぎ青少年センター 2F·第1·2研修室
2	富田　明子（認定こども園野ばら幼稚園·保育教諭） 青木　夏美（認定こども園みのり幼稚園·保育教諭）	宇都宮グランドホテル 1F·平安の間（AB）
3	手塚八千代（認定こども園黒羽幼稚園·主幹保育教諭） 吉沢　裕美（認定こども園長畑幼稚園·保育教諭）	宇都宮グランドホテル 1F·平安の間（CD）
4		パルティ 3F·研修室302
5		ろまんちっく村
6		コンセーレ 2F·アイリスホール
7	石江　香里（さくら認定こども園さくら幼稚園·副主幹保育教諭） 小林眞由美（認定こども園鹿沼ひかり幼稚園·保育教諭）	パルティ 3F·研修室301
8		宇都宮グランドホテル 1F·扇の間
9		栃木県総合教育センター 大講義室
10	滝田千寿子（認定こども園烏山聖マリア幼稚園·保育教諭） 吉澤　路代（認定こども園きつれ川幼稚園·主幹保育教諭）	コンセーレ 1F·小ホール
11	渡邉　花枝（認定こども園國學院大學栃木二杉幼稚園·保育教諭） 大久保容枝（認定こども園やすづか幼稚園·主任）	県総合文化センター 3F·特別会議室
12	森林さおり（野崎幼稚園認定こども園·保育教諭） 戸邉　陽香（認定こども園なでしこ幼稚園·保育教諭）	コンセーレ 2F·アイリスホール
13		県総合文化センター 3F·第1会議室
14	髙瀬　弘（那珂川町立なかのこ認定こども園·保育教諭） 星　将司（那珂川町立ひばり認定こども園·保育教諭） 山越　美夏（野崎幼稚園認定こども園·教務主任）	県総合文化センター 3F·第3会議室
15	藤井　千晴（足利くるみ幼稚園·教諭） 櫻井　麻美（足利短期大学附属幼稚園·教諭）	コンセーレ 1F·大ホール
16	岡田　幾子（認定こども園鹿沼みどり幼稚園·主幹教諭） 中村　公美（認定こども園仁神堂幼稚園·教諭）	とちぎ青少年センター 2F·第1·2研修室 多目的ホール
17		県総合文化センター 3F·第2会議室

配慮の必要な幼児の支援を考える（112名）

助言者　市川奈緒子（白梅学園大学·教授）
コーディネーター　安藤　紀子（認定こども園聖ヨゼフ幼稚園·園長）

参加者の声

子どもの行動には必ず意味がある。保育者は子どもに寄り添う姿勢が何よりも大切であり、園での子どもを取り巻く環境を考えていくことが保育者に求められる。

3分科会

保育の質を高めるチームマネジメント（ミドルリーダーのためのチームマネジメント）（55名）

助言者　大野　陽子（株式会社ヒューマンキャリアダイナミクス·代表取締役）
コーディネーター　齋川喜代美（認定こども園育成館幼稚園·主幹保育教諭）

参加者の声

ミドルリーダーとしての役割やチームマネジメントの視点として大切なところを学んだ。また、仕事量や職員同士のコミュニケーション等の働きやすさを考える機会になった。

4分科会

自然とかかわる遊び（49名）

助言者　髙橋　京子（ウレシパモシリ保育と自然をつなぐ研究会一·主宰）
コーディネーター　今井　政範（認定こども園さくらが丘·理事長）

参加者の声

たくさんの楽しい遊びがあり、自然に対して森への感謝や生き物たちの命の大切さも学べた。

5分科会

カウンセリングマインドを活かして保護者とより良い関係を築く（99名）

助言者　當間　桂子（ゲシュタルトセラピスト）
コーディネーター　佐々木桐子（萌丘幼稚園認定こども園·園長）

参加者の声

年齢を増すごとに固定観念や価値観が強くなっていることを実感。
3つの気づきが大切なことだと学んだ。

6分科会

0,1,2歳児の指導計画 ～一人一人の育ちを支えるために～（69名）

助言者　丸橋　亮子（宇都宮共和大学·専任講師）
コーディネーター　石戸奈緒美（みふみ認定こども園·副園長）

参加者の声

他の園と情報公開ができ、悩みや記録の方法、そして保育の見直しのきっかけとなった。

7分科会

幼稚園·認定こども園の安全を考える（58名）

助言者　猪熊　弘子（東京都市大学人間科学部·客員教授 フリージャーナリスト）
コーディネーター　大嶋　裕（認定こども園今市中央幼稚園·副園長）

参加者の声

プールの監視者のあり方について、身が引き締まる思いがした。プールで溺れる子の動画の場面を常に頭において、対策を図っていきたいと思った。監視者であることを認識して、“安全”の上に楽しい保育があることを共通理解していきたい。

1分科会

遊びの専門性 ～子どもが意欲的に遊ぶための保育者の配慮とは～（110名）

助言者　佐藤　康富（鎌倉女子大学短期大学部·教授）
コーディネーター　山中真由美（認定おおやこども園·副園長）

参加者の声

子どもの小さな気付きを大きな発見に変えるため、子どもをしっかりと観察して子ども達のつぶやきに耳を傾け保育環境を整えていくことが大切である。

2分科会

支援を要する子の保護者の気持ちに寄り添う ～保護者の思いを受け止め、協力できる関係作り～（81名）

助言者　立石美津子（子育て本著書・発達障害児を育てる母親）
コーディネーター　岡本　純世（認定こども園すみれ幼稚園・園長）

参加者の声

保護者自身が発達障害である可能性も考え、曖昧な表現や否定的な表現は避け、“子どものために”という思いをもって伝えることが大切であるということを学んだ。

13分科会

免許状更新講習（102名）

助言者　小林　研介（呑竜幼稚園・園長）
コーディネーター　寺内　宏子（作新学院幼稚園・副園長）

8分科会

幼稚園・認定こども園等におけるカリキュラム・マネジメント ～保育実践者の立場から考える～（40名）

助言者　神長美津子（國學院大學・教授）
コーディネーター　五十嵐市郎（宇都宮大学教育学部附属幼稚園・副園長）

参加者の声

カリキュラム・マネジメントを難しく考えすぎていた。日々の保育の見直しをしっかりすればよいことが分かった。

14分科会

新規採用幼稚園教諭研修（233名）

講話：県総務課人権教育室指導主事
　　幼児教育センター指導主事
演習：吉原　弘美（陽の丘幼稚園）
　　富田　　恵（さくら認定こども園さくら幼稚園）
　　篠原真木子（認定こども園茂木愛泉幼稚園）
　　石川　悦代（足利短期大学附属幼稚園）
　　吉田　綾香（認定こども園犬伏幼稚園）
　　小野塚圭子（認定こども園おもちゃのまち幼稚園）
　　藤森　里見（ひまわり幼稚園）
　　横山　美樹（鹿沼幼稚園）
　　伊藤　智子（認定こども園長畑幼稚園）
　　大久保美文（認定こども園かしわ幼稚園）
　　奥原　　忍（認定こども園西那須野幼稚園）

（詳細はP.7）

9分科会

幼児期の育ちについて考える（73名）

助言者　大竹　節子（前 東京都教職員研修センター・研修指導員）
コーディネーター　鈴木　典子（山辺幼稚園・園長）

参加者の声

遊びは学び、見ようとしなければ見えてこないという言葉が印象的だった。10の姿を明確に意識しながら保育を行っていきたい。

15分科会

園生活における食育を考える ～幼児の育ちにおける「食」の体験とは～（63名）

助言者　山梨　みほ（浦和大学・准教授）
コーディネーター　齋藤　君世（高根沢第二幼稚園・園長）

参加者の声

・「食育」をいろいろな角度から学ぶことができた。
・難しく考えずに出来ることからやっていきたい。

10分科会

心と身体を育てる運動遊び（86名）

助言者　河田　　隆（宇都宮共和大学・教授）
コーディネーター　池田　律子（聖母幼稚園・主任）

参加者の声

体を動かすことが楽しいと思えるように、保育者自身が楽しく体を動かす姿を見本として、子どもたちと一緒に楽しく行っていきたい。

16分科会

豊かな感性と表現を育む ～あそびの中で育つもの～（98名）

助言者　田代　幸代（共立女子大学・教授）
コーディネーター　斎藤　佳子（認定こども園しずわでら幼稚園・園長）

参加者の声

・一人ひとりの姿をきちんと受け止めていく大切さを実感した。
・子ども達が安心して自分らしさを表現できる保育の場を考えたい。

11分科会

預かり保育を見直し、全体的な計画につなげよう ～幼稚園及び認定こども園における「教育課程に係る教育時間外の教育及び保育」について～（66名）

助言者　宮里　暁美（国立大学法人お茶の水女子大学文教育学部人間社会科学科・教授／文京区立お茶の水女子大学こども園・園長）
コーディネーター　山﨑　英明（認定こども園釜井台幼稚園・園長）

参加者の声

話合いの中で参考となるようなアイデアや、やり方を学ぶことができ、自園でもできることから見直して、改善と実践をしていきたい。

17分科会

乳児保育研修　～発達の連続性と保育者の関わり～（71名）

助言者　髙橋　美保（白鷗大学・教授）
コーディネーター　栗田　英子（認定こども園黒羽幼稚園・園長）

参加者の声

“養護と教育は一体となって営まれる”ということを常に意識し、保育を行うことが大切であることを学んだ。

12分科会

研修会だより

第一回青年部研修会

期日　令和元年六月十四日（金）十六時～
会場　ホテルニューイタヤ
講師　㈱福祉総研代表取締役　**桑戸　真二**氏
テーマ　「幼児教育無償化がもたらす園経営の未来」

ひとくちメモ　コンサルタントや保育経営アドバイザーとして全国でご活躍されている経験を生かし、一．待機児童解消を目指して保育所を五十万人分つくるという政府の方針、二．経営者として意思（考え・思い）と意志（成し遂げようとする心）をもちその実現のための資金、三．無償化に伴う保護者の考え方の変化についてなどの話から始まった。また、幼児教育・保育の無償化に対して市区町村の施策次第で新待機児童が飛躍的に増える可能性がある。無償化が市区町村間格差を加速させ、園の努力だけでは解決できない状況を生む可能性があるので、市区町村との協議、要望提出をしっかりと行っていくことの必要性。他にも、令和二〇年の出生率が七十六万人と推計され、この令和十五年～令和二十年の出生数（推計）の合計が現在の就学前児童施設の総定員数とほぼ同じになる。つまり、生まれたばかりの赤ちゃんから小学校に入学するまでのすべての子どもが保育所や幼稚園・認定こども園、その他の施設に入所している計算となり、待機児童ゼロが目前に迫る今、各園が考えなくてはならないことがたくさんある。など、多岐にわたる内容を様々な視点からご講話くださった。無償化を目前とし、各園がどのように対応するか思い悩んでいる中で、今回の研修は一筋の光となったのではないかと思う。

新規採用幼稚園教諭研修

期日　令和元年六月二十七日(木)
会場　宇都宮大学教育学部附属幼稚園

ひとくちメモ　午前中に行われた「公開保育」では、園内の様子から、幼児自らが興味をもって、遊具や用具、素材についてふさわしい関わりができるように、数量や配置、素材の種類なども含めての「環境設定の工夫」の大切さを認識することができた。実際に参観した保育でも、幼児の自発的な遊びを促すためには、材料や用具、場の設定などを事前にしっかりと準備しておくことが大切であること、幼児が興味を示す新しい素材の開発が重要であることなどが確認できた。

午後に行われた保育研究でも、「その時々の幼児の興味に合わせて、幼児が自分から関わりたくなるような素材を準備しておくこと、幼児の気づきや発見を大切にし、幼児の『こうしたい』という思いや願いを尊重し、実現させていくことが重要であることなどが話し合われた。

受講者からは、「これからは、ただ漠然と保育するのではなく、発達段階に即したねらいを踏まえ、事前の準備をしっかりと行っていきたい」「今までの保育を振り返り、幼児が自信を持って取り組むような活動に挑戦していく必要性を感じた」というような、前向きな感想が多く寄せられた。

最後に指導助言の先生から、「幼児の『やってみたい』や『遊びたい』という思いが膨らむ環境を構成すること」「年齢に合った関わりを意識しながら全体の様子を把握しつつ一人ひとりに寄り添って保育すること」「自分が担当するクラスだけでなく、園全体で幼児の姿や様子の情報交換を行うことが幼児理解を深めるためには大切であること」等のアドバイスをいただき、受講者はさらに幼児教育の奥深さを実感したようである。

○・一・二歳児研修

期日　令和元年七月二十二日(月)
会場　コンセーレ
講師　和洋女子大学　准教授　**伊瀬　玲奈**氏
テーマ　「保育の当たり前を見直そう」

ひとくちメモ　講演は、○・一・二歳の保育で大切なこととして、愛着関係の重要性、質の良い愛着を形成する保育、なぜ愛着が大切なのか等の話から始まった。続いて、保育の見直しは必要なのか、良い保育を実践する難しさについて話した。一斉活動が不必要な○・一・二歳の保育で活動を一斉に行うと、子どもの待ち時間が生まれ、その待ち時間は案外長く、保育の質としては良くない。その待ち時間を一人遊びの時間に充てられるような保育が好ましいという内容の話であった。質の高い保育実践の話に移り、子どもへの働

きかけの質について、どの子にも遊びで寄り添う方法、あそびの援助の内容、いざこざへの関わり方、価値観を創る保育者の言葉掛け、保育者の援助と配慮について話があり、低年齢児の食事に対する危険性と注意点について説明した。最後に、保育の中身を見直す必要があるのかないのか、乳幼児期にふさわしい保育内容・方法か、園事情や保育者の都合が優先されていないか等、当たり前に行っている保育をよく考え直す必要がある訳だが、変えるだけが見直しではないということに注意しつつ今ある物的・人的環境で最良の保育を考えることが大切である等と、講演のまとめが話され閉会した。参加者は各園の保育と照らし合わせることで、何かしら感じ取れることがあり、今後の保育の質の充実に役立つことであろう。

スクールバス安全運転研修会

期日　令和元年七月三十日（火）
会場　宇都宮グランドホテル（平安ＡＢ）
講師　宇都宮中央警察署
　交通管理官　**大渕　政樹**　氏
　株式会社栃交自動車学校副管理者・教務部長　**石崎　隆英**　氏

ひとロメモ　スクールバスの交通安全教育として、日々の交通安全についての心構えや、注意点を確認した。安全運転を心掛ける上で大切なこととして、体調管理をしっかりと行うことが重要である。また、運転に集中して、何事にも「急」を避ける心構えを持つことがあげられる。送迎中に気をつけるポイントとして、園児に席を立たせない、降りた後に注意して、バスの死角となる部分に気をつけることが重要である。次にプロドライバーとしての心構えとして、バスを利用する園児の一日は、朝のバスから始まる。保護者、園児に親しみやすく好印象を与えることが必要であり、あいさつ・身だしなみ・言葉遣いなど気を付けることが大切である。また、保護者からの安心安全評価は園への信頼に繋がる。運転手に求められる責任は重く、プロドライバーとしての誇りと自覚を持ち、毎日の運転を振り返り、日々の反省を繰り返すことが、幼稚園への信頼・評判に繋がっていく。改めて「責任の重さ」を理解する研修となった。

新規採用幼稚園教諭等宿泊研修

期日　令和元年八月八日（木）～八月十日（土）
場所　栃木県立とちぎ海浜自然の家

ひとロメモ　今年も、①「明朗できまり よく行動する生活体験」、②「豊かな自然体験」、③「積極的に社会人としての体験等を積むとともに、学校教育としての幼児教育及び保育の理解を深める」を目的とし、栃木県幼稚園連合会青年部委員が実行委員、教育研究委員が講師として三日間を通して様々な内容の研修を行った。

　初日は生活や活動、研修がスムーズに行えるようグループワークトレーニングでアイスブレイクを兼ねた全体活動を行った。各グループの関係性を深め、お互いを知る良いきっかけとなった。また、夜の全体活動「水の事故防止～安全で楽しい水あそびを実施するために～」では、水の特性を知り、安全に楽しく遊ぶために注意しなければならないことについて話し合いを中心に学んだ。

　二日目、全体活動「これでバッチリ！園の代表として自覚を持とう!!」では、社会人としてのマナー、電話対応等について事例を基に学び、新人でも園の代表であることを再認識させ、自信を持って保護者対応ができるよう学びを深めた。選択活動では、自園ですぐに実践できる歌、制作、室内外あそび、水遊び、〇～二歳児の保育について午前午後に分かれ、研修を行った。夕食後は、任意活動に希望者は参加し、楽しい雰囲気の中でスキルを身につけるとともに、気分転換ができるような時間を過ごした。

　最終日、各班で活動時間外を使って、話し合い、協力して作り上げた手あそびを披露する「手あそびコンクール」を実施。グループの関係を深める良い活動となった。

　宿泊研修は、新採者、実行委員ともに学び多い貴重な三日間となった。

第三十四回関東地区教員研修
山梨大会報告

期日　令和元年八月二十一日（水）
　　八月二十二日（木）

会場　山梨県甲府市ＹＣＣ県民文化ホール

テーマ「子どもの今と幸せを願って
　～大切なものをみつめよう～」

ひとくちメモ

関東地区の約八百名の教員が集結し開会となった。来賓に山梨県知事と甲府市長大会が出席されたことは、関東大会山梨県開催では初ということで大変な盛り上がりだった。また永年勤続表彰では、栃木県からさかえ認定こども園の飯野先生、育成館幼稚園の荒井先生、高根沢第二幼稚園の齋藤先生をはじめ二十五名の先生方が表彰された。この場をお借りしてお祝い申し上げる。

開会式後、全体会での基調講演は東京家政大学こども学部教授加藤繁美先生による「保育の中の子どもの声～リスニングの保育実践～」を演題とした講演があり、子どもの声に耳を傾け、子どもの声を起点に保育を作り出すこと、子どもの声を正当に評価できる保育実践を目指すことを中心に応答的・対話的に実践を創り出すことの難しさと必要性などをご教示を受ける。第二部のアトラクションでは、甲府商業高等学校ソングリーダー部によるダンスを鑑賞した。ポンポンを使った演技などリズミカルで大変迫力があった。

二日目には、各県が担当する八フォーラムと山梨県担当する五フォーラムの計十三フォーラムに分かれて研修が行われ、栃木県は第二フォーラムを担当。コーディネーターにしずわでら幼稚園の齋藤桂子先生、問題提起者に栃木二杉幼稚園の渡邉花枝先生とやすづか幼稚園の大久保容枝先生、内部ゲストの國學院大學栃木短期大學栗原和子教授と外部ゲストの共立大学の田代幸代教授をお迎えし質の高いフォーラムとなった。今大会に参加された先生方に心から感謝申し上げる。

来年度は神奈川大会であったが、国を挙げてのイベントになる「東京オリンピック・パラリンピック」による会場の確保やホテルの確保が難しいことから「休止」となる。大変残念なことだが、また再来年度神奈川大会から再スタートとなる際には、さらに多くの教員の皆さんが参加され、新たな学びや刺激を経験してもらいたいとの思いである。幼児教育・保育を志す「仲間」と共に、子どもたちの今と未来の幸せを願い、実践することが私たちの最大の使命であることを改めて心に刻み、報告とする。

（教育研究委員長　認定こども園愛泉幼稚園　小倉庸寛）

就職説明会

期日　令和元年七月七日（日）

場所　宇都宮グランドホテル
　　扇の間及び平安の間

参加状況

参加園数　百五十四園
参加者数　三百五十三名

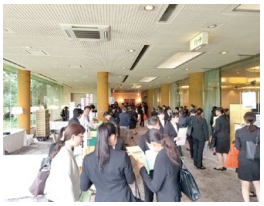
参加者内訳

県内学生　三百十三名
県外学生　四十名

栃幼連主催の就職説明会は、今年度をもって二十三回目を迎えた。前年度まではマロニエ・プラザで開催されていたが、今年度は昨年からの計画通り宇都宮グランドホテルで開催された。

年々より厳しさを増す幼稚園教諭・保育士のなり手不足、早期離職問題に苦慮し何とか職員を確保すべく臨んだ園も少なくなかったのではないだろうか。学生側の参加者数は昨年と同数の三百五十三名であったが、ここから幼稚園や幼稚園由来の認定こども園だけでなく、保育園や各専門施設、一般企業等の選択肢があることを踏まえると、お世辞にも多い数字とは言えないだろう。幼稚園・幼稚園由来の認定こども園の魅力が多くの学生に伝わるように就職説明会の手法にも一ひねりの工夫が必要である。今年度も前半一時間は面談時間を十五分ごとに区切る形式で行った。二回目ということもあり、園側・学生側共に大きな混乱なく各ブースで面談が行われ、学生らはそれぞれ思い思いの園へと足を運び、メモを取りながら熱心に話を聞く姿が見られた。そして、今年度の新しい試みとしては、四園以上と面談をするとお土産をもらえるというスタンプラリーが導入された。これによって、多くの学生に話を聞いてもらいたいという園側の思いと、多くの園の話を聞きたいという学生の思いの一助となったのではないだろうか。

今回の就職説明会を機に、学生らの幼稚園・幼稚園由来の認定こども園への興味が深まり、自分に合った自分の力を存分に発揮できる園と出会え、また園の人手不足が少しでも解消し、子ども達を取り巻く環境がより豊かなものになるよう願っている。



幼児教育センターだより

教育課程研究集会〔幼児教育〕第一日

六月十二日に教育課程研究集会〔幼児教育〕の第一日を開催しました。これは、文部科学省の「平成三十一年度幼稚園教育理解推進事業」の都道府県協議会に該当するもので、幼稚園教育の質の保証を目的としたものです。文部科学省から本県に示された協議主題は、『幼児理解に基づいた評価の在り方について』『障害のある幼児などへの指導や、障害のある幼児児童生徒との「交流及び共同学習」の推進について』『幼稚園における教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動について』の三つです。

午前中に、松蔭大学コミュニケーション文化学部子ども学科の山下文一教授より、この三つの協議主題について講話がありました。加速度的に変化する、予測困難な時代における教育の方向性を常に確認しながらの分かりやすい解説でした。

午後は、協議主題ごとに分科会に分かれました。

A分科会では、記録の様式や活用の工夫、妥当性や信頼性が高められる評価の工夫、幼児期の発達の状況の適切な引き継ぎの工夫の三つの視点で、B分科会では、幼児の障害の状態等に応じた適切な指導を行うための工夫、「交流及び共同学習」を実施する上での工夫の二つの視点で、C分科会では、預かり保育の計画の作成において考慮すること、預かり保育において多様な体験ができるようにするための工夫の二つの視点で協議を行い、それぞれ、演習や情報交換を通して主題について理解を深めました。

B分科会

C 分科会

A 分科会

そして、自園の現状や課題を改めて確認し、第二日（九月十八日）に向けて、各園での研究の方向性を固めました。

協議主題の下、研究を通して、各園の質の向上が図られることを期待しております。

新規採用幼稚園教諭等研修 第三日（幼稚園教育研究大会第9分科会）

七月三十一日に、新規採用幼稚園教諭等研修第三日を開催しました。猛暑が続く中での研修でしたが、新採者は、それを感じさせないくらいの熱意をもって、研修に取り組んでいました。また、日頃の頑張りを分かち合い、同期の仲間とたたえ合う姿が見られました。

はじめに、県教育委員会総務課人権教育室の星治副主幹より「一人一人を大切にする教育」について人権講話がありました。思い込みを取り払い、多様な見方で子どもを捉えることの大切さに気付き、一人一人の特性に応じた指導を心がけていきたいという感想をもった新採者が多く見られました。

続いて、センター職員より「幼児理解・園児の理解から始まる保育」をテーマに講話及び保育映像を通した演習を行いました。

午後は、十一班に分かれて、各地区から推薦された指導助言者による演習を行いました。午前中の映像視聴を基にグループで対象児の理解を深めました。新採者は、子どもの表面的な行動に振り回されず、本当の思いを推し量ろうとしていました。その後、付箋紙によるワークを通して、幼児理解・園児の理解において大切なことについてまとめました。最後に、指導助言者より、それぞれの御経験から、貴重な助言をいただきました。

研修の最後には再び全体で集まり、第四～六日の宿泊研修のオリエンテーションを行いました。

これからの研修

○合同研修〔幼小〕
十一月一日（金）・十一月五日（火）
十一月七日（木）・十一月十一日（月）
講話「幼児期にふさわしい生活を通して育まれる資質・能力とは～カリキュラムの接続を目指して～」
協議「『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を視点に、接続期の教育の在り方を考えよう」

○トップセミナー
十一月二十六日（火）
講話「園における安全管理と安全教育」
東京成徳短期大学
安見　克夫　幼児教育科長

★幼児教育センター研修案内よりお申し込みください！

こども政策課だより

各種提出書類について

●幼稚園運営費補助金交付申請書
・提出期限　十月中旬（予定）
・令和元年度幼稚園運営費補助金（一般補助分）の内定については、十月上旬を予定しています。交付申請書の提出に当たっては、別途通知する内定通知に基づき提出願います。

●幼稚園教材費等補助金交付申請書
・提出期限　十月中旬（予定）

●幼稚園運営費補助金及び幼稚園教材費等補助金（**特別補助分**）関係書類
一　特別支援教育
・提出書類
ア　対象園児就園状況調書
イ　対象園児担当・指導教職員に関する調書
ウ　対象園児である旨の判定調書
・提出期限　十月下旬（予定）
※ウについては、身障者手帳、特別児童扶養手当証書、療育手帳、専門医の診断書又は、児童相談所等の判定書のいずれかが必要となります。
　また、学級担任以外の教職員から特別な教育支援を受けている幼児が補助対象園児となりますので、御留意願います。

二　子育てランド事業
・提出書類
ア　子育てランド事業実施計画書
イ　各事業における保護者等への案内通知（写）
・提出期限　十一月上旬（予定）

三　わんぱく保育推進事業
・提出書類
ア　わんぱく保育推進事業実施計画書
イ　預かり保育実施記録
ウ　保護者等への案内通知（写）
・提出期限　十一月中旬（予定）
※各種提出書類の詳細については、別途送付する通知文を参照の上、提出願います。

令和元年 十月～十二月までの事業予定

10月8日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修
10月12日～11月2日	第26回　ピカピカの栃木県
10月18日	幼稚園教育振興の集い（鹿沼市）
10月28日～29日	全日私幼　設置者・園長研修全国大会（和歌山）
10月31日	※幼稚園等教職5年目研修
11月1日	※合同研修（幼・小）
11月5日	※合同研修（幼・小）
11月7～8日	全日私幼　関東地区代表者協議会（栃木）
11月7日	※合同研修（幼・小）
11月11日	※合同研修（幼・小）
11月13日	設置者・園長研修会
11月17日	とちぎ教育振興大会
11月18日	保育セオリー講座
11月22日	※幼児期の特別支援教育研修
11月26日	※トップセミナー
11月28日	0・1・2歳児研修
11月29日	認定こども園委員会研修会
12月5日	保育テクニカル
12月11日	資質向上研修
12月17日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修（集合研修）
12月26日	新規採用幼稚園教諭等研修
	※は幼児教育センター事業

＊県大会予告＊

令和二年度 栃木県幼稚園教育研究大会

令和二年八月十九日（水）　全大会
二十日（木）　分科会
二十一日（金）　分科会
会場：栃木県総合文化センター　他

編集後記

今年の夏は…と毎年の様に思ってしまうが、振り返ると今年は特に梅雨が長かった。その梅雨が明けるや否やいきなりの猛暑に、準備のできていない体からは容赦なく体力や水分を奪われてしまう。何事にも準備は大切だが、暑い最中の二学期は運動会などの大きな行事も多く、殊更に様々な準備に頭を悩ませる学期であろう。

さて、まもなく幼児教育・保育の無償化が行われるが、準備は着々と進んでおられるであろうか。無償化となることにより、保護者の負担が軽減され、ひいては少子化に歯止めをかけ、更には質の高い教育を受けられる機会をより多く作る。これにより、これから先の日本の担い手である若い世代を育成することが社会的にも、この職に携わる我々にも求められる。

一方、無償化に伴う危惧もある。必要以上の掘り起こしによる教育・保育需要の急増、それに伴い人手不足からくる教育・保育の質の低下を招く恐れがあるからだ。近年の教職員不足に輪をかける状況になれば、質の低下は避けられず、採用にも準備を怠らないよう心掛けたい。

残暑厳しい中での運動会の練習に、熱中症にならぬよう気を配りながら、園児募集、教員採用、無償化への対応と気苦労の多い事案が山積みではあるが、余念のないようしっかりと準備をしていきたい。

（認定こども園大平みなみ幼稚園　小森谷　博一）